

ワーケーションの聖地としての 福島・いわき市

福島県立磐城高校・1年 ^{クサノ}草野 ^{ヒナミ}ひな美

1、はじめに

2021年はあの忌々しき東日本大震災から10年という節目の年である。当時幼稚園生だった私は、地震の経験が少なく、揺れを人一倍強く感じ、幼いながらも死を予感したほどであった。そして、その数分後、震災の更なる恐怖が襲ってきた。大津波である。大津波は人や家々を飲み込むだけでなく、今なお大問題となって続く福島第一原子力発電所までも襲った。その影響で、待ちに待った小学校入学後も校庭で友達と遊ぶことさえ許されず、小学生にとっての一大イベントである運動会は2年もの間開催されなかった。なぜなら除染が必要となり校庭の土の入れ替え作業を行っていた為である。それだけではなく外出時は必ず放射線量の計測計を首から下げ、常に随所に設置されたモニタリングポストの数値を気にかけて生活しなければならなかった。また、きれいな花を見つけて摘み取っても『危ないから今は摘んじゃダメ』と注意されるなど目に見えぬ敵である放射線によって生活に大きな制約を受けていた。だが、このような個人的な被害はまだまだ可愛いもので、放射線によって大打撃を受けたのは農業や漁業を営む方々だった。安全性が検査にて確保されたにも関わらず「福島で作られたから…」という理由で、現在も福島の農作物や海産物が首都圏などでは売れにくく安値で取引されているのである。

そんな震災によって甚大な被害を受けた福島であるが、私はこれからの未来、この福島だからこそできる事があると考えている。それはワーケーションの聖地として福島県、いわき市を売り出すことである。

2、これからの福島

前述したように、私は福島県、特にいわき市をワーケーションの聖地とするのが望ましいと思う。理由は主に3つである。

1つ目は、温暖な気候であること。暖流の影響で首都圏より夏涼しく冬暖かい為、冷暖房の使用量も少なく生活できる。また冬の降雪量がとても少ない為、路面凍結もあまり見られず冬でも安全に車の運転や散歩が可能である。また日照時間が長い為、ソーラーパネル

を利用して自家発電を行っている家も少なくない。以上の理由から1年を通し、エコで大変過ごしやすい気候と言える。

2つ目は、多種多様な行楽施設があること。例えば県立水族館のアクアマリンふくしま、隣接し映画館も併設されている大型商業施設のイオンモール小名浜、温水プールや温泉・宿泊施設を備えたスパリゾートハワイアンズなどが挙げられる。それだけではない。広大な芝やアスレチックを備えた県立公園である三崎公園、多くのゴルフ場や温泉・スポーツジム、乗馬クラブや果実狩りといった自然と触れ合える施設も楽しめる。これだけの行楽施設が市内に存在する為、休日や仕事に疲れ一息つきたい時だけでなく、健康や憩いとしての朝活・夕活を気軽に楽しむことができる。このような利点からも有益と考えられる。

3つ目は、首都圏への交通の便は良いが、新型コロナウイルスの感染者がとても少ないこと。これはコロナ禍にある今だからこそ、ワーケーションの地として選ぶ際、重要な要因の1つとなるであろう。勿論、単に感染者が少ないだけならば他の地域もある。しかし、基本的に感染者が少ない地域の多くは首都圏からかなり離れた地域である。それに比べ、いわき市は首都圏から特急列車や高速道路利用で東京まで約2時間半、さらに高速バスは低料金で30分に1本、早朝から運行されている。会社への急な対応が必要な場合でも、降雪の影響を受けにくく首都圏に私有車で駆け付けられる距離である。これらの状況からも重宝される地域となり得ると考える。

3、おわりに

以上のことから、いわき市は太平洋に面し、多くの自然に囲まれ温暖な気候風土。農産物や海産物に恵まれ物価も安い。市内に多くのリラクゼーション施設を有し、更に最も懸念されている新型コロナウイルス感染者数が少なく首都圏からのアクセスも良好である。これほどまでにワーケーションに適した土地を生かさないうで良いのだろうか。これらの理由から、これからの未来、いわき市をワーケーションの聖地とすることが福島の発展にもつながっていくのではないかと考える。